

# 青少年委員だより

第109号

〒124-8555 葛飾区立石 5-13-1 ☎5654-8482

葛飾区教育委員会・葛飾区青少年委員会

<https://www.city.katsushika.lg.jp/kosodate/1000057/1030200/1002670.html>

第109号 主な内容

- 1面：会長インタビュー
- 2・3面：定例会報告
- 4面：あれこれ小中記  
防災体験研修

発行/令和8年1月15日

シリーズ  
あれこれ小中記

各小中学校の校長先生に青少年委員への  
思いをお話していただくシリーズです。



## 立石中学校の巻 千葉 貴志 校長

地域に支えられ成長する立中学生



立石中学校は本年度、創立七十六周年を迎えました。生徒数は366名、自閉症・情緒特別支援学級と弱視学級を併設しています。

本校では「考判断実行」を生徒の行動の基本としています。考え判断し行動する習慣は、自らの成長と思いやりある集団作りにつながります。登校から日常まで爽やかな挨拶に溢れています。生徒会がボランティアを募る「役に立ち隊」では、校庭の小石拾い、周辺の落葉掃除など、多いときは二百名を超える生徒の参加があります。行事は生徒主体に運営し、特に合唱コンクールの時期は、校舎の隅々まで歌声が響き渡ります。コンクールではハーモニイが会場を感動で包み込みます。部活動にも熱心に取り組む、十月の葛飾区中学校連合陸上競技大会では、総合優勝2連覇を達成しました。

このように生徒が力を発揮できるのは家庭・地域の「ご理解・ご協力」のおかげです。特に青少年委員の皆様の献身的な支援はすべての学校にとって大きな力となっています。

本校では職業人から話を聞く会、地域ボランティアへの情報提供、三年生への面接指導、少年の主張大会の運営、近隣中学校との生徒会交流会の企画・運営など多岐にわたる支援をいただいています。まさしく、生徒の成長に向けた環境の整備、魅力ある体験の機会の提供に「尽力」いただいています。

生徒にとって、学校にとって、青少年委員の皆様は心強い存在です。心より感謝申し上げますとともに、子どもたちの健やかな成長に向けて、学校・家庭・地域の太く強い連携を構築するために、今後も益々のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

## 三瓶会長インタビュー

### 「改革の年」

を振り返って

① 今期(令和6・7年度)の活動方針は「改革の年」でした。その手応えはいかがですか？

あまり目立たない部分ではありますが、まず「会」を楽しく運営することとを第一の目標としました。会長や副会長からといって特別にえらいわけではなく、青少年委員会は73名の委員一人ひとりが作り上げていくものだと思います。その意味では、少し手応えを感じました。また、定例会の時間変更、専門部への定例会集約、枠にとられない研修など、いくつかの改革を進めることができたと感じています。

② 改革の柱として掲げた「定例会の在り方見直し」「小中PTA連合会・校長会などの連携強化」はいかがでしたか？

定例会については、仕事を持つ方が半休を取っても13時30分には間に合わない場合が多いため、開始時間を

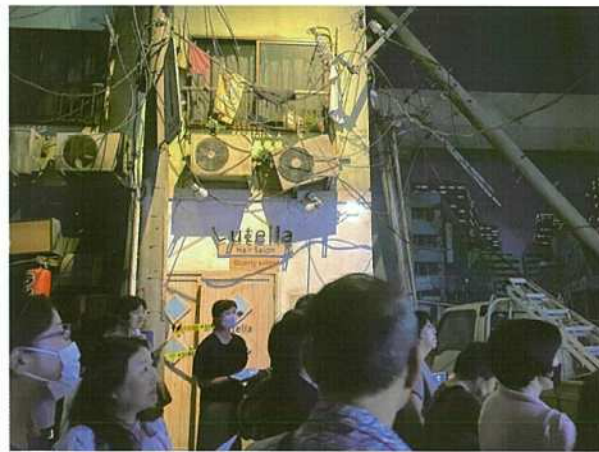


武道祭に協力(R7年11月)

七月の定例会は体験学習部による企画「葛飾を離れ、江東区の「そなエリア東京」へ。」「そなエリア東京」は、地震災害後の支援が少ない時間を生き抜く知恵を学ぶ防災体験ツアー「東京直下72hツアー」を中心とした防災体験学習施設です。有事の際には、緊急災害現地対策本部が置かれ、そのためのオペレーションルームやヘリポートも敷地内に設置されています。

体験ツアーでは、実際に傾いた信号機や崩れた建物を目の当たりにし、何をすれば良いか考えることで、自分の事として危機感を持つて捉えることができました。

実際に災害が起きた場合、地域と学校を繋ぐ青少年委員として、具体的に何ができるのか、どう行動する必要があるのか、深く考えさせられました。



そなエリア東京「東京直下72hツアー」の様子

## 防災体験研修「そなエリア東京」 &「首都圏外郭放水路」



八月は5ブロックがミステリーバス研修を企画。向かった先は、猛暑の外気とは別世界：ひんやりとした地下の巨大空間に、大きなコンクリートの柱が整然と林立する圧巻の防災地下神殿でした！

「首都圏外郭放水路」は国道16号の地下50m、全長6.3kmの「地下トンネル」と、地域の河川から水を取り込む5箇所の「立坑」、江戸川へ水を放水するための「調圧水槽」と「ポンプ設備」などで構成され、我々が見学したのは「調圧水槽」の部分です。中川・綾瀬川流域を洪水被害から守るため、1993年着工、2002年から稼働されており、総工費2300億円。毎年平均7回は稼働しているそうです。近年の気候変動による水災害の激甚化・頻発化を踏まえると、守られている実感と同時に、このような施設が各地に必要なと感じました。



三瓶 千里 会長

③ 会長として意識して行っていることはありますか？ 対外的にはどのような振る舞いでいますか？

道半ばではありますが、一歩前進できたと感じています。また、スポーツ協会との連携についても、現在は「武道祭」などの催しの中で実現していますが、今後も少しずつ広がっていききたいと思っています。

会長として、常に青少年委員会のPRを意識しています。各会への出席、関係団体との協力、学校マネジメント研修での講義など、可能な限り行ってきました。しかし、まだ活動が十分とは言えず、青少年委員会の認知度は低いと感じています。今後も引き続き、地道に発信していきたいと思っています。

④ 「未来に向けて新たな青少年委員会を作る」と掲げられましたが、どのような姿を思い描いていますか？

青少年委員会は、73名のメンバー一人ひとりが作り上げていく組織です。コロナ禍を経て社会情勢が大きく変化し、学校教育もリモート授業の併用など子どもたちの環境も変わりました。青少年委員会も同様に変化が求められています。今後はDXの推進(リモート活用、連絡事項の簡素化、紙媒体の削減、データ共有など)を進め、

あらゆる情報をキャッチして委員間で共有し、学校や地域とも連携していくことが大切です。一見当たり前のように見えることですが、地道に取り組んでまいります。

⑤ 「地道に、かつ楽しく、真剣に」というスローガンについて、特にそれを感じた場面はありますか？

定例会や役員会において、委員同士が以前よりもフランクに意見を出し合うようになったと感じます。お互いの考えを率直にぶつけ合いながら議論を深める——その姿こそ「地道に、楽しく、真剣に」という活動の象徴だと思います。



保田しおさい学校を訪問(R7年2月)

(担当：情報部)

## 9月 定例会

## その略語の意味や使い方、知っていますか？

～青少年委員 IT リテラシー向上研修～

九月の定例会は、大塚副会長が講師となり、青少年委員が時代の進化に取り残されないよう、ITリテラシー向上を目的に、IT用語などの略語の意味や使い方と、スマホやネットに潜む身近な危険への対処法についての勉強会を行いました。

前半は、ニュースなどでよく聞くカタカナ単語や若者言葉(DX、エビデンス、コンプライアンス、アジェンダ、ステマ、IoT、エモい、〇〇しか勝たん、チルる?)など約80語について、分かりやすい解説と、クイズ形式で、大いに盛り上がりしました。

後半は、主に個人情報流出を防ぐ方法について、偽サイトや、なりすましメールの見分け方、多要素認証の重要性、パスワードは英字(小文字・大文字)、数字、記号をミックスさせる事など、すぐに使えるコツなどを確認できました。



ChatGPT などについて解説する大塚副会長

(担当：中学校支援部)

## 10月 定例会

## いのちと性の教育～地域の大人が知っておきたいこと～



赤ちゃんが生まれ持つ力について熱く語る井出陽子先生

十月の定例会では、NPO法人さんばはうす葛師の理事長・助産師の井出陽子先生に、中学校の出前授業で行っている「いのちと性の教育」についてお話しいただきました。

性教育は、妊娠の仕組みと避妊方法を学ぶだけではなく、命の大切さや尊厳について学び、自己肯定感を高め、自分らしく生きるための人権教育です。

自分も相手も大切だと実感させることは、LGBTQ+への理解、ポルノと現実とは違うこと、性的同意の重要性にもつながります。SNSでの性的画像送信やディープフェイク被害の危険と隣り合わせの現代、小中学生のうちから「自分の身体の境界線」や「明確にNOと言う権利」を教える取り組みは、子どもの命と人生を守るため、非常に意義深いと感じました。

(担当：研修部)

## 11月 定例会

## ゲートキーパー養成講座

ゲートキーパーとは、身近な人の自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応を図ることができる「命の門番」と位置付けられる人のことです。

十一月の定例会は、メンタルレスキュー・インストラクターの香川武久先生に来ていただきました。

自殺は自分の意思で行うと思われがちですが、うつ症状の一つの事。疲労が蓄積すると気持ちの上下の揺れ幅が大きくなり、自殺を考える程思い詰めていても、表面上はまた頑張れるように見えるため、他人からは気付かれにくく、また、うつ状態が続くと気力が更に低下し、ちょっとした事でダメージを大きく受けてしまい、感情に支配され、冷静に理性的に物事を考えられなくなってしまう。

アドバイスや叱責は心に届かないので、まずは味方だと分かってもらい、話したくなったらいつでも聞くよと伝え話してくれた時は感謝と傾聴で接する、そして専門家繋げることが重要です。

また、元気のない人だけではなく、頑張りが抜けている人にこそ、声をかけ、味方になつていくこと、そして何より疲労を溜めないよう、睡眠と休息を取りましよう！



(担当：役員会)

## 4月 活動報告

## 今年も大好評！子どもまつり

初夏の香りを  
感じる四月二十七日(日)水元公園にて『葛飾区子どもまつり』が開催され、青少年委員会の風作りコーナーは今年も多くの親子連れで賑わいました。

風を組み立て、思い思いの好きな絵を描いて仕上げたら、さっそく風揚げに挑戦。可愛らしい風が、青空いっぱい揚がっていました。時折吹く強風に、風が一気に高く舞い上がると、多くの歓声が湧き起こり、たくさんの親子が一緒に楽しい時間を過ごしていました。



風に思い思いの絵を描く子どもたち



(担当：広報部)

## 5月 定例会

## 私たちの広報活動～ツールとしての広報紙～



広報課の方からのアドバイスを踏まえ、今号はロゴなどをリニューアルしました。

五月の定例会では、葛飾区総務部広報課から永山広報係長と広報係の鈴木氏を講師に迎え、区で行っている広報活動や「広報かつしか」はどのように作成されているか、また、伝わりやすい紙面づくりのポイントなどをお話いただきました。

区民に「知ってもらうこと」を常に意識し、じっくり読む人が多いシニア世代向けの記事は紙面上に全ての情報を載せ、一方若い世代向けの記事は、短時間で最低限の情報が伝わるように、より詳しい情報は二次元コードからWeb上で確認できるようにする等、対象に合わせた工夫をしていることなどが分かりました。

定例会後半は、各ブロックごとに青少年委員をPRする通信やポスターの草案作りをしました。青少年委員の認知度を上げるにはどうすれば良いか、現状の問題点を整理し、活発に意見を出し合いました。今回出たアイデアを今後の広報活動に活かして行きたいと思っています。

(担当：小学校支援部)

## 6月 定例会

ネットに関わる犯罪の現状  
～青少年が被害者・加害者にならないためには～

保護者は子どもがオンラインゲームに過度に依存していないか見守って欲しい。そしてオンラインカジノは犯罪です。

また、犯人になるような少年はITエンジニアの技術を持っているので、犯罪ではなく、セキュリティエンジニアとして将来に活かせるような仕組みを作りたいとも話されていました。

保護者は子どもがオンラインゲームに過度に依存していないか見守って欲しい。そしてオンラインカジノは犯罪です。

また、犯人になるような少年はITエンジニアの技術を持っているので、犯罪ではなく、セキュリティエンジニアとして将来に活かせるような仕組みを作りたいとも話されていました。

